

【研究概要】

授業における ICT の活用に関する調査研究（第 2 報）

－学習場面に応じた 1 人 1 台端末の活用を中心として－

中央教育審議会答申では、『「令和の日本型学校教育」の構築に向けた ICT の活用に関する基本的な考え方』について、「ICT を主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かす」ことが方針として示されている。そこで本調査研究では、「教育の情報化に関する手引」に示されている「ICT を効果的に活用した学習場面の 10 の分類例」を基に、学習場面における活用のポイントと効果を検証することとした。

1 年次の調査研究では、授業における 1 人 1 台端末の活用に向けて、アンケート調査や研修会、授業実践に取り組んだ。アンケート調査からは、1 人 1 台端末の活用に関する教員と生徒の意識の差が明らかになった。また、授業実践においては、5 つの学習場面におけるポイントと効果をまとめることができた。

2 年次の調査研究では、1 年次の調査研究を基に、以下の 3 つの研究を柱に進めることにした。

- ・研究 1 「1 人 1 台端末の活用に関する教員と生徒の意識の把握」
- ・研究 2 「1 年次の成果を生かした学習場面に応じた 1 人 1 台端末の効果的な活用」
- ・研究 3 「1 人 1 台端末の活用に関する教員の意識向上への取組」

研究 1 では、1 年次に比べ、授業において 1 人 1 台端末を活用する割合が増加したことが明らかとなった。また、2 年次の 5 月と 11 月を比べると、授業において 1 人 1 台端末を「ほとんど活用していない」と回答した教員の割合が大きく減少した。

研究 2 では、「ICT を効果的に活用した学習場面の 10 の分類例」の中の、1 年次に取り組まなかった 5 つの学習場面について授業を設計し、実践した。その後、教員・生徒へのインタビューや振り返り、事後協議会での授業分析等を基に、活用のポイントと効果をまとめた。

研究 3 では、教員の意識向上を目指して、1 人 1 台端末を活用し、アプリケーションやクラウド体験を行う研修会を実施した。個別で行う小規模な研修会やブース形式の体験会を開催することは、個別の課題に対応できるよさがあった。また、各研修会で学んだことを生かして授業実践を行う教員の姿がみられるようになった。

本調査研究を通して、学習場面におけるポイントと効果を明らかにすることで、様々な学習場面において教科・単元の枠を超えて、1 人 1 台端末の活用が進んだ。さらに、教員のニーズに合わせた研修会や体験会を行うことで、1 人 1 台端末の利活用推進につながるようになった。